

Profile

大久保 光哉 (バリトン) Mitsuya Ohkubo : Baritone

北海道出身。慶應義塾大学法学部卒業。東京藝術大学大学院博士課程および文化庁オペラ研修所第10期生修了。文化庁在外派遣研修員としてスウェーデンに留学。音楽博士。白糠町文化奨励賞受賞。二期会会員。札幌音楽家協議会会員。

新国立劇場では、こけら落とし公演《TAKERU 建》をはじめ、《黒船》《沈黙》《こうもり》《ラ・ボエーム》《修善寺物語》《ジャンニ・スキッキ》など多数の公演に出演している。また、二期会《有間皇子》《リゴレット》《ルル》、東京オペラプロデュース《修道院の結婚》《ロビンソン・クルーソー》、東京室内歌劇場《井筒の女》、二期会・読売交響楽団・日生劇場共催公演《リア》、横浜みなとみらいホール主催《竹取物語（沼尻竜典作曲）》、KAAT神奈川芸術劇場《カーリユー・リヴァー》などオペラ役者として話題作に多く出演している。また、東京フィルハーモニー管弦楽団《遙かなる響き》《ファウスト博士》《抒情交響曲》《アルファとオメガ》、東京交響楽団《カーチャ・カヴァノーヴァ》《死者の家》《裏切られた海》、読売交響楽団《椿姫》《ヴォイツェック》《バリトンとオーケストラのための般若心経》ほか、アンサンブル金沢、仙台フィル、札幌交響楽団など主要オーケストラと共演。ほかに、NHK【FMリサイタル】【名曲リサイタル】【BSプレミアム“クラシック倶楽部”】、読売テレビ【夜の音楽会】に出演。

我が国における北欧歌曲の第一人者として、日本フィルハーモニー管弦楽団とのシベリウス歌曲の演奏や、2夜にわたるオール・シベリウス歌曲のリサイタル、東京新聞主催《クレルヴォ（シベリウス）》、レークサンド音楽祭（スウェーデン）でのスウェーデン歌曲の演奏、《火の起源（シベリウス）》など、北欧歌曲の普及にもつとめている。

昨年、札幌では、札幌文化芸術劇場hitaru【楽々夫人】に出演。また【北欧と日本、伝承を歌う】と題したりサイタルは北海道新聞や音楽の友誌にも取り上げられるなど好評を得た。

さらに、神奈川フィル合唱団音楽監督などの合唱指揮や《カヴァレリア・ルスティカーナ》《魔笛》などのオペラの演出、《滝廉太郎をめぐって～島崎藤村の回想》《宮澤賢治～その光と影》といった演奏会の企画・構成などマルチな活動を展開している。

現在、北海道教育大学岩見沢校准教授として後進の指導にもあたっている。

大久保 咲恵子 (ピアノ) Saeko Ohkubo : Piano

千葉県市原市出身。千葉県立千葉女子高等学校卒業後、武蔵野音楽大学音楽学部器楽学科ピアノ専攻卒業。大学卒業後、数度にわたり渡欧し、ウィーン国立音楽大学ノエル・フローレス教授のもとで研鑽を積む。ウィーンのペーゼンドルファーザールにてコンサートにも出演。2000年にはスウェーデンを訪れ、ヤン・エイロン氏にスウェーデンのピアノ作品の演奏法と伴奏法を学び、「月刊ショパン」に「スウェーデン音楽紀行」を執筆。現在、数多くの演奏会に出演し活躍中。

在学中より伴奏活動を始め、数々のコンクールやコンサートで多くのソリストと共演している。また後進の指導にあたるとともに、幼稚園や公民館などで、子育て支援・家庭教育学級の音楽講師として、入園前の乳幼児や園児に音楽を指導している。千葉県視聴障害者協会コーラス部の指導、千葉市視覚障害者協会では音楽の講座を担当している。2014年地域視覚障害者の福祉増進への功績をたたえ感謝状を授与。音楽ライターとしては音楽誌の記事を多数執筆。ピアノ音楽誌「月刊ショパン」では「21世紀へのピアノ教室」を連載し好評を得た。

2002年、自らの家庭を題材にした作品「小さな手」(田村徹作曲)の構成及び作詩を担当。2003年1月草月ホールにおいて、大久保光哉と大久保舞咲(当時1歳6か月)と共演し初演。その業績に対し、「日本の音楽展・ズイホー賞奨励賞」を受賞した。

【入場料】一般 3,000円/学生 1,000円(全自由席)

市民交流プラザチケットセンター(北1西1)
道新プレイガイド(大通西3 ☎0570-00-3871)
教文プレイガイド(北1西13 ☎011-271-3355)

- 共催＝ザ・ルーテルホール
- 後援＝札幌市/札幌市教育委員会
(公財)道銀文化財団/札幌音楽家協議会
- お問い合わせ＝平和ステージ・オフィス ☎011-665-0675

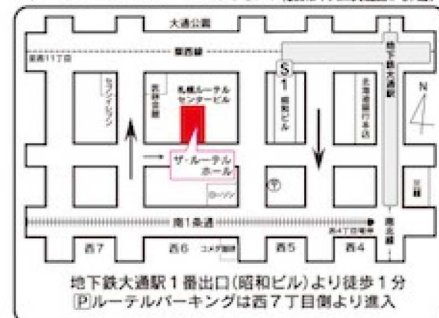
道新プレイガイド
オンラインストア



平和ステージ・オフィス
予約ページ



ザ・ルーテルホール案内図 Tel.011-251-1311
札幌市中央区大通西0 (99番)



会場内では
マスクをしましょう



発熱・体調不良の際は
来場をお控えください



手指消毒をしましょう



ソーシャルディスタンスを
取り、会話はお控えください